

2025 年度実施の民俗芸能

とびつき太鼓（半田市）

向山区神楽獅子保存会

【概要】獅子館（神輿：1778 年頃造）後方に大太鼓をのせ、花笠を被ってこれを打ち、飛び上がるように舞うのが「とびつき太鼓」です。太鼓を叩く人は、揃いの派手な衣装に赤い袴をかけて白足袋を履き、頭には桃色の花笠をつけます。両手に桴を持ち、道行きの笛に合わせ、腰を落したりする所作をしながら、跳びつくように獅子館の上に置いた太鼓を叩きます。囃子には横笛と締太鼓が加わり、その曲に合わせて踊りながら、太鼓を叩く人は館の大太鼓に跳びついて叩きます。



銭太鼓（豊田市）

駒場銭太鼓保存会

【概要】「銭太鼓」を持った踊り子たちが、囃子に合わせ、「ヨイヤ サッサイ」と声をかけながら踊るもので、駒場神社の大祭に五穀豊穡を祈願し、奉納されます。銭太鼓の表面に張った紙には、太陽をかたどった赤い丸、裏面には月と星が描かれ、胴の部分は大地を象徴した緑に塗られています。内部の12枚の銭は1年・12月を象徴し、天地の恵みによる農作物の豊作を願い感謝するという意味が込められています。



野田雨乞笠おどり（刈谷市）

野田雨乞笠おどり保存会

【概要】野田雨乞笠おどりは、野田八幡宮で行われていた「雨乞」を8月下旬に行事として行うものです。この雨乞は華やかな演出は一切なく、鼓太鼓を中心に浴衣に赤い袴、一文字笠をかぶった踊り手が二人一組で向かい合い、昔ながらの唄の節と吹き鳴らされる法螺貝に合わせ太鼓を叩き、静かな中にも雨を乞う「昔の農民の思い」を力強く表現する踊りです。また保存会には大人だけではなく、幼稚園児から大学生も参加し、後世に引き継がれるよう活動しています。



ばしょう踊（一宮市）

北方ばしょう踊保存会

【概要】北方ばしょう踊は、一宮市北方町東大日に伝わる民俗芸能で、従来干ばつの際に雨乞踊りとして踊られました。

踊りは4人の武将と8人の鉦擦りで構成され、唄い手、笛吹きがこれに加わります。武将は約3mの竹を12（12か月を示す）に割り、それに1年の日数分の色紙を付け、中央に御幣を立てて「芭蕉」と呼ばれる指物状のものを背負います。色紙は、雨乞祈願のときは白、お礼のときは緑、金、赤、銀、紫紺の5色と決まっています。鉦擦りは子どもで、1人の武将に2人従います。



宮流神楽と巫女舞（半田市）

亀崎潮干祭保存会

【概要】宮流神楽と巫女舞は、5月初旬に開催される亀崎潮干祭において、神前神社から尾張三社への渡御および還御の式典で奉納されます。宮流神楽は、熱田神宮で演奏される熱田神楽をルーツに持ち、江戸期後期には亀崎へ伝わりました。巫女舞のルーツは定かではありませんが、神楽伝播と同時期ではないかと察せられ、今に継承されています。

宮流神楽は、亀崎に23曲程度が伝承されており、宮流神楽笛と平太鼓・締太鼓が使用されます。太鼓は一人で両太鼓を叩きます。巫女舞は宮流神楽に合わせて鈴や扇子を使用して舞います。

